

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500332		
法人名	社会福祉法人 陽和福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームどんぐりの森		
所在地	愛知県春日井市高森台5丁目6番地1		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町村受理日	平成31年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中川区四女子町1丁目59番地の1 レインボー四女子902		
訪問調査日	平成30年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設の他事業者や系列病院と連携をとることにより、ADLの低下た体調の変化に合わせた対応ができること。グループホームの良さを活かし、買い物や調理、家事を利用者様と行うことによりADLの向上と維持に努めていきたい。その他にも利用者様一人ひとりの趣味を大切に、ボランティアや活動等に積極的に参加していってもらいたい。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスの良さを活かし、地域の活動に参加させてもらったり、施設の行事に来てもらったりしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパー等に行くことで、地域とのつながりができている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の喫茶やオレンジカフェを定期的に関くことで、認知症や、地域の方々の悩みを聞く場にもなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現在のグループホームの状況や困難事例、苦情等を話し合うことにより、より良いサービスが提供できるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が行なっている介護職員を紹介する「介護ラブレター」のコーナーでグループホームの職員を紹介してもらった。また、介護相談員の派遣も受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームでは身体拘束しないケアに取り組んでおり、玄関の施錠を含め、生活の全てにおいて比較的自由に行動及び出入りできるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止については職員のみならず、利用者方ともコミュニケーションを多く取り、そういった事が防ぎやすい環境作りに心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用する方がみえないのですが、そのような方を対応する場合は、職員間でも話し合いを持ち、多くの方に対してサービスを提供していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約の場合は、お互い十分納得できるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用前に本人、家族の意見、意向を十分に確認し、プラン、計画に入れ込み、本人の希望に出るだけ沿った生活が送れるようサービス提供している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者一人ひとりに担当を作り、意見を求めより良いものとしている。さらに会議の場では、担当のみならず、全員の意見も含めて話し合いが出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の特徴や性格を活かし、自然と日常に役立てるようにしている。例えば、レクが好きな人には、レクを計画してもらったりして、それにより楽しく仕事ができる環境作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップする事を目標に施設内の講習や、施設外の研修等にも何名か参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケアマネや、同事業所の方と勉強会やネットワーク作りは月1程度で行ってる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一番は出来るだけ今までの生活に近い環境を維持し、本人の希望に沿った生活を送ってもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や問題にも注意しつつ、同時に本人の希望や意見を見失うことの無いようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の話しの中から、本人と家族等が何を希望をしているかを見極めサービスの優先順位をつける。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者という立場にならず、家族や、時には人生の先輩となり、色々な事を学ばせて頂いたり、力を貸して頂き何かをやったりすることが多い。例えば、園芸や料理、工作などそれぞれで詳しい利用者様に聞きながら行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一方通行の介護にならないよう、時々家族からの意見をいただいたり、行事に参加出来るような時は一緒に参加して頂いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの習慣であったり、通ってきた店をいつまでも大事にする。例えば、今まで通っていたスーパーに行ったり、ご家族と連携し、今まで通っていた馴染みの美容院に行ったりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数での生活の為時には喧嘩もありますが、その後はお互い笑顔になれるよう職員が間に入って気分よく最後終われるようにしている。日頃から刺激の無い毎日より、楽しい事、悲しい事、腹が立つような刺激のある毎日の方が楽しくていいよ。と利用者様とは話をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	先日サービスが終了されて方では、その後ご主人様の体調も心配し、小規模多機能や、サービス付き高齢者住宅の当施設も十分に活かし、その後の家族様をサポートしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ今までの生活を確認し、この方は何が好きだったのか。等を事前に調べ意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に集めた情報を基に生活環境を整えるようにしています。そして、施設で週2.3回くらいあるボランティア等に好きそうだと思えばお誘いするようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の過ごし方としては、一人ひとりバラバラで好きなように過ごしてもらっています。多少時間がかかるかもしれませんが自分で出来る事は出来るだけ本人にやらしてもらおうようにしています。それによりADLの維持に繋がっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に本人、家族、他の職員の意見をまとめ本人の意見、意向に沿った計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく書く事により、これならできそうでは？とか、こんな事が低下して出来なくなった。と職員間で情報共有ができています。それにより、計画書の見直しがされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々本人家族の状況は変化しており、開設当初より認知機能の低下や脚力の低下など様々で、戸れに伴い、家族の状況や家族の抱える問題点も変わってきた。その都度、対策を考えたり、当施設の利点の他授業所を活かしたりして対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設では、小規模多機能との連携がととても大きく、自宅での生活困難者や家族の介護疲れを見て生活困難者がいれば優先して入所する場合もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はかかりつけ病院がある場合はそのままかかりつけ医にかかることも可能で、ご家族と連携しながら行っており、春日井リハビリテーション病院にした場合は往診や連携もスムーズに行えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ちょっとした気づきがあれば看護師の意見をもらい、家族様とも密に連絡を取るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	系列病院がある為、入院中も現在の状況や退院の目処も細目に確認「することができる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前末期の方に関しては、事前に本人、家族の意向を確認し、病院では何ができないか。施設では今後、どのような生活になるのか分かりやすく説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃からこういうことが起きたらこうゆう対応をするようにと話しができている。あと現在いる職員は比較的経験年数も長くベテランの職員が揃っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃から、何に2回避難訓練を実施しており緊急時の体制を築いている。しかし、最近異常気象がとても多いのであらゆる対策のシュミレーションを話しておきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いくら認知症がある方でも人生の先輩、といことを忘れずに、丁寧な言葉かけに気をつけるよう心かけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせ、自己決定できる方はしてもらい、少し難しい方に関しては、こちらとこちらなど、選択肢を減らし、出来るだけ自己決定できる環境を作っている。例えば、服どちらがいいか。熱い飲み物か冷たい飲み物か。行事に参加するかしないか。等。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	比較的日中はのんびりした生活なので、常に利用者のペースで時間が流れている。食事時間に関しても朝は起きた方から提供し、食べて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	先ほども答えたように、自己選択できるようにしおり、誰もがその人らしい格好や、生活を送る事ができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、配膳や盛り付け、片付けを行ってもらいADLの向上につなげている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在はクックチルにて食事を提供している為、食事のバランスや形態が自由になっている。水分量に関しては、水分量が少ない方や自分で好きな時に飲みたい方には、水筒にお茶を適宜入れ好きな時に飲めるようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は主に声かけが多く、混雑することを避け空いたら次の人に声をかけてとしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗される方に関しては、早目に声かけすることにより失敗を防げる時もある。現在は数名は布パンツから、リハビリパンツに変更するか検討中。トイレに座るまでにすでに出てしまうことが多い。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を多くとるようにしていただいたり、バナナや、ヨーグルトといった自然食材を使い出来るだけ促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に2日1回のペースで入浴の声かけはしている。自己決定できるかたに関しては曜日も決めておらず、時間も自分で好きな時間に書き込めるように7になっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの人が良眠出来ていると思われているが、今は昼夜逆転し、夜間ほとんど寝れないと訴えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大体の薬や内容に関して理解しているが、全て把握しているわけではない。その際は看護師に薬の効果等確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが楽しい生活になるよう生活歴を事前に調べ、日課や、楽しみになることを作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外は職員の付き添いが必要になってくるが、施設内の場合は、本人の自由に出入りできるようになった。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で支払いができる方については、付き添いのもと買い物の際に支払いをしてもらい。楽しみももってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があった際には事務所の電話を使って頂きご家族に連絡したり、本人に代わり要件をご家族に伝えたりしている。その他、手紙が書ける方は、家族や友人にお手紙や、年賀状を送ったり、している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の雰囲気に近づけるように入居の際には、自宅から馴染みのある物をもってきていただいたりしている。その他にも季節感をもてるように花や飾り、食事も旬の物や畑で取れた物を、今収穫したばかりと伝えながら、提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は自由に行動が出来る為、1階、2階の友達や職員外の畑に好きな時行くことが出来るようになっている。そして疲れた時や、休みたい時等は居室にて休むこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段から過ごしやすい空間になるよう、職員が配置するのではなく、利用者様自身が物の配置を考えている方が多い。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	楽しみを持って生活が出来るよう、昔これやっていたこれが好きだった等あれば本人希望でやってもらったり、ボランティア等に参加してもらっている。		